

平成29年度 串間市立本城小学校 学校関係者評価書

※ 評価・・・大変良い 4点 良い 3点 もう少し 2点 改善を要する 1点

| 評価項目      | 評価指標            | 具体的手立て   | 達成状況  | 自己評価 | 関係者評価 | 学校関係者評価コメント   |
|-----------|-----------------|--|---|------|-------|---|
| 1<br>学力向上 | (1) 基礎・基本の確実な定着 | <p>① 諸学力調査の分析・活用</p> <p>② 単元テスト平均85点以上</p> <p>③ 年間を通した読書指導(読書週間の実施)</p>          | <p>① 全国及びみやざき学力調査の分析を行い、今求められている学力についての共通理解を図って、校内研究や日々の授業で弱点を克服できるように取り組んでおり、その成果が徐々に表れてきた。</p> <p>② 単元によってばらつきがある。思考を要する問題に課題があり、授業や宿題等で説明できる力を育てるよう心がけている。</p> <p>③ 学習内容に沿った読書に取り組んだり関連の本を紹介したりしている。また、11月に読書月間を設定し、読書量を増やす取組をし、読書意欲の高まりが見られた。</p>   | 3    |       | <p>○ CRT結果は、1・4学年を除き、全国平均を上回り評価できるが、1・4学年の結果に対する原因調査を実施して対策を講じてはどうか。また、昨年の結果に対し、低下傾向にある。そちらも要チェックである。</p> <p>○ 思考を要する問題はどの学校も頭を悩ませている。課題の掘り起こしが重要なので、今後とも取組の継続を臨む。</p> <p>○ 読書への取組は学校単独では困難と思われる。保護者を巻き込んだ対応が肝要と考える。例えば、簡単な同じ本を保護者と読んで本の感想文を求めるなどしてはどうか。</p> <p>○ 読書月間で読書意欲が高まったようだが、読書量と意欲の関係を掘り下げていくと、もっと違った効果が生み出せるのではないだろうか。</p> <p>○ 読者が楽しいという意識づくりが必要である。</p>   |
|           | (2) 学ぶ意欲の育成     | <p>① 学習態度週間の実施</p> <p>② アクティブ・ラーニングの推進(全職員の研究授業)</p> <p>③ 表現力の育成(リレー作文、宮日投稿)</p> | <p>① 毎学期学習態度をチェックして低い項目について指導を繰り返し、徐々によくなっているが、もう一歩である。</p> <p>② アクティブ・ラーニングを校内研究で取り組み、全職員が3回の研究授業を行った。学校支援訪問時に一人一人フィードバックを指導主事から受け、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>③ 給食時の放送を使って、前者の作文の感想と自分の作文を本人が読み、次の読み手を紹介するリレー作文に取り組み、全員が一巡した。よい作文は宮日新聞に投稿し、8回掲載された。また、新聞等の取材の際に多くの児童がインタビューを経験し、自己表現力が身に付いてきた。</p> | 3    | 3     | <p>○ 学習態度に落ち着きのない児童が増加する昨今、先生方のご苦勞を察する。学習態度週間の実施で、どのようなチェックで、どのような成果が出たかを示すと、更に評価がはつきりすると思える。</p> <p>○ 苦手をなくすことが学力向上の基本と思われるので、学習態度と苦手教科内容の改善に取り組まれるのは大事なことだ。学校の努力がうかがえる。</p> <p>○ 校内研究などの取組が意欲的である。職員の意気込みが伝わる。</p> <p>○ 宮日新聞での掲載8回は素晴らしい。いつも新聞で本城小の名前を探している。</p> <p>○ 知っていることを文字や言葉で表現できて完成される学習もあると思われるので、作文やインタビューの対応は大事だ。発表が上手になったことは素晴らしい。</p> <p>○ マスコミ利用とインタビュー等により本城のイメージを発信できて素晴らしい。</p> <p>○ 少人数で8回掲載されるというのは、表現力の向上がなされているのだと思う。</p> <p>○ 学校文集「あおしお」の全員分を読んだ。すごい！とてもその学年とは思えないくらいしっかりと自分の思いが文章に表れていた。「お話をつくろう」や俳句・短歌も上手で感心した。</p> <p>○ 校内放送でのリレー作文の取組は本当に素晴らしい。自己表現力育成に大きな成果が期待できる。串間市青少年の声を聞く会での別宮さんの発表は素晴らしい(一例)。</p> |

|   |         |                 |   |   |   |   |  |
|---|---------|-----------------|---|---|---|---|--|
| 2 | 生徒指導の充実 | (1) 望ましい人間関係の育成 | <p>① いじめ・不登校対策委員会の実施と充実</p> <p>② 挨拶と正しい言葉遣いの推進（児童・保護者意識調査80%以上）</p>         | <p>① 毎月1回全職員で対策委員会を開き、指導の方針を共通理解し、専門機関にもつなぐなど、取り組んでいる。また、緊急を要するものについては校内ケース会議、関係機関とのケース会議を開いた。それぞれの事案は解決したり、よい方向に向かっていたりしている。</p> <p>② 学校外での挨拶に課題があったが、「あいさつチャンピオン」を毎日紹介したりして、少しずつよくなった。また、言葉遣いは全般によいが、時折思慮のない発言や粗野な発言が見られるため、その都度指導を繰り返している。（児童：71%、保護者：64%）</p> | 3 | <p>○ 職員の間で把握できるいじめなどの他に、見えないものをどう改善できるかが鍵だ。保護者アンケートなどで、児童が見聞きした事案を吸い上げる方策を立てると更に良い方向性が見いだせるのではないかと。</p> <p>○ 緊急を要するいじめ等の案件については承知していないのでコメントできないが、笑顔や元気な様子にふれられてよかった。ただ、いじめは見えないところで起きていることが多いので、きめ細かで、いじめられている児童が声を上げやすい環境を引き続き作ってあげてほしい。</p> <p>○ 私も参加したケース会議等の時だけでなく、その後の様子や先生方の取組について常に連絡をもらい、状況がわかった。熱心に取り組まれていることが伝わってくる。</p> <p>○ いじめ・不登校対策委員会を毎月1回実施されているため、大きな問題になる前に対応が取れると思う。先生方の児童への接し方が児童目線で非常に良い。</p> <p>○ 挨拶の養成は、児童誘拐や事件の多発している今日、難しい面もある。スポーツ競技においては「挨拶に始まり、挨拶に終わる」とされ、礼儀作法でもあり、また、心を開く一方法とも言え、大事なコミュニケーションの一つであろう。「あいさつチャンピオン」の毎日の紹介は競争心を植え付け、効果的と思える。</p> <p>○ 挨拶の意識調査がほぼ80%と昨年に比べて落ちたが、正しい言葉遣いは60%で、ほぼ達成されている。言葉遣いにかんする改善に努力してほしい。</p> <p>○ あいさつチャンピオンは素晴らしい施策である。</p> <p>○ あいさつや言葉遣いは家庭でのしつけも大事だ。</p> <p>○ 朝起きたときに保護者が子どもに対して挨拶ができていれば、外でも自然と挨拶ができると思う。</p> <p>○ 今回、私たちに対する挨拶は今までより元気でよかった。</p> |  |
|   |         | (2) 校内の美化や整理整頓  | <p>① 無言清掃の徹底</p> <p>② トイレのスリッパ並べの徹底</p>                                     | <p>① どの児童も清掃には真面目に取り組むが、無言清掃の徹底まで至っていない。日々指導にあたり、良くなってきている。</p> <p>② 児童全員が使うトイレではあるが、スリッパは全般によく並べてある。全てが並んでいることは少ないが、乱れの度合いは小さくなってきた。今後も指導を継続していきたい。</p>  | 2 | <p>○ 無言清掃の徹底について保護者は87%と高評価だが、自己評価は徹底していないとのことなので更に改善を望む。</p> <p>○ 美化や整理整頓は大人も難しい課題だ。ただし、社会生活を営む上では大切な事柄。企業では「5S運動（整理、整頓、清潔、清掃、躰）」として活動している。躰とは決められたことを守ること。根気よく進めてほしい。</p> <p>○ 楽しくきれいに清掃できれば良いと思う。</p> <p>○ どのスリッパが誰（例えば学年別）の担当か決め、その担当に責任を持たせて注意を喚起するなどするとある程度の徹底ができるのではないかと。</p>  |  |
| 3 | 体力の向上   | (1) 体力づくり       | <p>① 体力テストで県平均を上回る（96項目中75項目以上）</p> <p>② 持久走強化週間・なわとび強化週間</p> <p>③ 徒歩通学</p> | <p>① 昨年度の6・3項目から5・7項目に下がった。体育の授業での体力向上を図る工夫をしていきたい。</p> <p>② 持久走週間やなわとび週間を設定し、持久力や跳躍力の向上を図った。熱心に取り組めた。</p> <p>③ ほとんどの児童が徒歩通学できている。</p>  | 3 | 4   | <p>○ 県の体力づくり優良校に選定された昨年度を思い出してほしい。体力テストの結果が57項目しか上回らなかったのは残念である。</p> <p>○ 体力テストの結果が昨年度より低下、ましてや目標の75項目に対して57項目と未達成の状況。結果分析を実施し、対策が必要である。何をなすにも体力は大事だ。休み時間の遊びを活用しての体力増進を狙うのも一方法ではないだろうか。</p> <p>○ 持久走やなわとびの週間はよいアイデア。今後も児童のモチベーションアップを図ってほしい。</p> <p>○ 参観時に1・2年生のなわとびの様子を見て、元気できびきびした様子が伝わって良かった。</p> <p>○ 徒歩通学ができることで体力向上にもつながると思う。</p> <p>○ 徒歩通学を妨げるのは親の意識（違う意味の愛情）の問題かと思われる。</p> <p>○ 徒歩通学は地域により通学距離が違うが、通学距離と体力の関係はどうだろうか。徒歩通学も大いなる体力増進効果を生むのではなかろうか。</p> |

|                |                      |  |   |   |  |
|----------------|----------------------|--|---|---|--|
|                | (2) 食育の充実            | <p>① 早寝・早起き・朝ごはんの推進（児童意識調査80%以上）</p> <p>② お弁当の日を3回以上実施</p>                             | <p>① できていると思っている児童が82%であった。ただし、数名が毎朝顔色が悪く、朝食について声かけを続けてきた。</p> <p>② 遠足の時に保護者に呼びかけ2回実施している。3月の遠足時に3回目の実施予定である。</p>   | 4 | <p>○ 世界の中で、最も食の量、質、安全に憂いのない日本だ。その中で朝食を摂れない（摂らない）児童をなくすことは、日頃の声かけしかないだろう。継続は力なりである。</p> <p>○ 「いただきます」とは食べるものすべてに命が宿っていることを知り、尊い命を自分の生命維持に捧げてくれたことへの感謝だ。食を通して食べ物や命に感謝する心を是非育んでほしい。</p> <p>○ ごはんと味噌汁だけでも食べられるように保護者の協力が徹底できるとよい。</p> <p>○ 朝食抜きで登校させる親の気持ちがわからない！食事は生きる上の基本だから、子どものつぶやきを聞いて紹介できる方法はないのだろうか。先生方の苦勞が察せられる。</p> <p>○ 朝食は体力の源。保護者の理解と協力が肝要だ。</p> <p>○ 母親の作ってくれた遠足弁当が、楽しかった子どもの頃の思い出として今も残る。今は給食時代。楽しい弁当の思い出を残せるよう計らってほしい。</p>  |
| 4<br>家庭・地域との連携 | (1) 家庭・地域との連携        | <p>① 授業等における外部人材の活用（キャリア教育の推進）</p> <p>② 学校から地域への貢献活動</p> <p>③ 家庭学習の徹底（児童意識目標80%以上）</p> | <p>① 動物愛護センターによる「命の授業」や人権教育、きゅうりちぎり、火育、米づくりなど、様々な外部人材を活用できた。また、色々な職種を知ることができた。</p> <p>② ナイトレンジャー、千野浜そうじ、コスモス・ひまわりの種まき、ほたるの里夏まつり、市秋祭りパレード、権代の生き生き森づくりに参加できた。</p> <p>③ 児童の意識は75.6%で下回ったが、宿題等の提出はほとんどの児童ができている。個別に指導を要する児童に対しては、昼休みや放課後の居残り学習や保護者への協力要請を続けている。</p> | 3 | <p>○ 動物愛護センターでの「命の授業」に同行させてもらった。このような機会に恵まれる子どもたちも幸せだろうが、積極的にこのようなチャンスを活かす道を拓いていただいた皆さんに感謝したい。「火育」もユニークで、児童の知識意欲や将来への大いなる芽となったことだろう。</p> <p>○ 「命の授業」では、つらい現実を学習したことだろう。様々な学びを経験でき、子どもたちは幸せだと思う。</p> <p>○ 核家族が増え、お年寄りの接し方がわからない児童が増えている今日だ。高齢者への優しい接し方を身に付けたり、お年寄りの経験談を聞くことで、差別やいじめのない、いたわりの心をもつ人間育成はできないだろうか。このことが、人権教育の補助になるのではなかろうか。</p> <p>○ 地域のみなさんと共に行事に参加されるのは素晴らしい本城地区の伝統だと思う。</p> <p>○ 学校から地域への貢献活動は、そのまま継続してほしい。</p> <p>○ 地域の活動にどんどん参加してもらいたい。</p> <p>○ 外で遊ぶ子どもが少なくなってきた中でも地域との交流はできていると思う。</p> <p>○ 家庭学習の徹底が目標値を若干下回っているが個別指導が行き届いていることは評価したい。</p> <p>○ 家庭学習の徹底は、保護者の意識・協力が重要だと思うので、更なる働きかけが大事だ。</p> |
|                | (2) ホームページ等を通しての情報発信 | <p>① ホームページの更新</p> <p>② 本校の取組について新聞等への情報提供</p>   | <p>① ホームページはH28.7.26のリニューアル以来、更新を繰り返し、2月20日現在のアクセス数が37,298人に達している。</p> <p>② 報道機関に事前に情報を発信し、学校行事や活動に関して13回、毛筆作品23点が宮日新聞に掲載された。また、テレビでも「宮崎牛シチュー給食」や「手洗い教室」の様子が放映された。</p>  | 4 | <p>○ いつもホームページを拝見している。日々の学校活動の様子がよくわかる。更新は大変だろうが頑張してほしい。</p> <p>○ ホームページの更新で本当によく学校行事や教育の状況がわかる。大変だろうが今後も維持継続を願いたい。</p> <p>○ インターネットを利用できない地域住民に対しても学校通信「本城っ子の風」を回覧で発信され、学校の状況が把握できる。</p> <p>○ 新聞を読むたびに本城小の記事がないかまず探す。見つけたときは嬉しいものだ。「宮崎牛シチュー」はインパクト大だった。和牛の神様と本城、今後の地域貢献と励ましになった。今年度も宮日ジュニア展特選が出て素晴らしい。今後も更なる取組に期待している。</p> <p>○ 今年度は何度も新聞やテレビで本城小が出たので、うれしい限りだった。今後もいろいろな活動を期待している。</p> <p>○ 本城っ子の活躍を見るたび、先生方の努力を感じる。</p> <p>○ 校長先生を始めとする先生方の積極姿勢が、いい方向へ波及していると思う。</p>  |